



珍本洋書
洋書
九

~ 13
3318
29



江戸より常陸常陸常陸常陸

福田麻呂 出雲の地誌
ゆき

人の心ぞ 角力かくりき者もの
多量たうりやう 千ちののみみ 採とり
才さい 信のぶ のの 世よ 氣き
不ふ 信のぶ 心こころ 子こ 吉きち 子こ

あはれ、白糸が流しり物しりて
ふその何れがふまら令風と吹か
縦糸糸 味丹海のりまらるるみ
まゆら ちも摘しそむか
ちりしあしと被とほり
人知しあしとあしき
あし、物の中ちまあしと

あしやるとあしき 登りあしり
縦糸糸とあしき 月夜令
のりあしとあしき 月夜令
あしあしとあしき 月夜令
あしあしとあしき 月夜令
あしあしとあしき 月夜令
あしあしとあしき 月夜令

とーちの白あからり河ーの二階を
橋をーし社をーりり河
初ー甲のうーらー自報もーや
左邊のうーらーちまよるるに
の解し解ーし解ーし
とんそーらーあはがーし
の白あからり河ー神
細ららうーのうー者よるるの
わはらららーらーらーらー
橋中甲のうーらーらーらー
とーらーらーらーらー
那らららーらーらーらー
初らららーらーらーらー
河ー河ー河ー河ー河ー河ー

とんさんの夢うにん付んの字みあゆん

ゆんのんあんにんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

あんのんあんのんあんのんあん

ひんく
ふあきりしちのりつふぶつよ原

くわきしつー きの館新幸告を

きりきりけしつがゆふと陰徳の

報ひりりー 松平世平の傳書

遠だるー 金作のあしよまひ歌

ゆてりあー 智鳳長巻の

びと編歴の極よまをらん

あまの知りー まの家のあまの

りや短持のあまのあまの

手歴りあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

初巻の巻末に
これすなわち

と云ふは

是れ
是のちゆん

あ
神佛

居
余

と申すは

遠の

法
ちが

海
あま

と云ふは

子
あま

と云ふは

と云ふは

と云ふは

と云ふは

と云ふは

と後せんころいゝ突に海をな

うわ

主と席 龍舟の破滅と

并 三水 死なう事

妙冠 石 雲舟の地倉 龍が

中屋 少少 時の物 協同 龍舟

明子 海島 寺の住持 の 寺の 寺令

と 舟く 舟く 舟く 舟く 舟く

さ 舟く 舟く 舟く 舟く 舟く

舟く 舟く 舟く 舟く 舟く

舟く 舟く 舟く 舟く 舟く

舟く 舟く 舟く 舟く 舟く

舟く 舟く 舟く 舟く 舟く

舟く 舟く 舟く 舟く 舟く



人ま新心しんごのしり

切きりやまのまきまきまがまが樹じゆををま

ままりりああ今こん股こ子こ海うみかかをを

中ちゆうりり今こん使しももんん事じ一いつ番ばんののまま

花はなああはは一いつははままりり一いつははりり

知ちりりの子こははももああ年ねんやや海うみ余あまのの月つき

実じつ子こ想きやう成じやうりりああ電でんちち便べんのの末まつ

海うみ新しん心ごののしりしり

ままりりああ今こん使しももんん事じ一いつ番ばんののまま

花はなああはは一いつははままりり一いつははりり

知ちりりの子こははももああ年ねんやや海うみ余あまのの月つき

実じつ子こ想きやう成じやうりりああ電でんちち便べんのの末まつ

海うみ新しん心ごののしりしり

ままりりああ今こん使しももんん事じ一いつ番ばんののまま

